

第20回

人権ショートレター 入賞作品 発表



小・中学生の部

最優秀賞 「無意識ってこわいよね。」

「コロナで感染者が学校で出た」というメールをもらったとたん生徒や親は「誰がかかったの?」といっせいに問い合わせた。無意識かもしれない。悪気はないのかも。でもそれって誰かを傷つけてませんか?

優秀賞 「本当にそれでいい?」

それって人を傷つけていることを知っていましたか。あなたの書き込みによって、個人の名誉やプライバシーを奪っていることを。あなたにとっては一瞬のことに過ぎない。でも相手には一生の深い傷として残っていく。

優秀賞 「「ちょっと」の重さ」

「ちょっとしたこと」はやがて「深い傷」になる。「深い傷」は永遠に消えない。「ちょっと」は「深い」の前兆なのだ。いじめは相手も自分も嫌な思いをする、最も罪深き行為だ。すべては「ちょっと」からはじまる。

優秀賞 「あなたのおかげで」

私がつらい時、あなたが優しい言葉をかけてくれたおかげで、私はたちなおることができました。「大丈夫?」「元気出せよ」とか言ってくれて私はとてもうれしかったです。いつかあなたがつらくなったら私が支えます。

佳作

「ありがとうとごめんなさい」
「あいさつはまほうの言葉だ」
「コロナ差別」
「個性が輝やく未来」
「なにげない」

人間らしく生きること、差別や偏見に対して感じたこと、お互いの個性を認め合うことなど、「人権」を大切にしている気持ちを手紙に…。

全国から1,902通の応募がありました。入賞作品を紹介します。(佳作はタイトルのみ)

問合せ＝人権施策推進課(内線332・333)

高校・一般の部

最優秀賞 「おねがい」

SNSでの誹謗中傷。途端に孫が不登校になった。ねえ、皆。言刃じゃなくて心を向けて。画面じゃなくて顔を見て。空気なんか読まないで相手の心の中を読んでごらん。これ以上SNSからSOSを出さないで。

優秀賞 「今、母へ。」

母が僕に、僕の障害について謝ったことがある。その時、いじめられた記憶を思い出し、何も声をかけることが出来なかった。でも、障害のおかげで、僕は人に優しくなれた。今、母へ。「産んでくれてありがとう。」

優秀賞 「「いってらっしゃい」、「おかえり」の一言」

駐輪場のおっちゃんの「いってらっしゃい」、「おかえり」の一言、つらいことがあっても一瞬忘れさせてくれます。たった一言で人の気持ちは変わります。良い方向にも悪い方向にも。だからぼくは一言を大事にします

優秀賞 「広がれ、「どうぞ」の輪！」

「どうぞ」高齢女性に席を譲った若い女性の鞆に、マタニティマークがあった。「どうぞ」私はその女性に席を譲った。「ここにどうぞ」高齢女性が私のリュックを膝に乗せてくれた。「どうぞ」は慈愛の輪を作る。

佳作

「大きな背中」
「娘へ」
「ごめんねよりありがとう」
「自分の本当の笑顔を忘れた君へ」
「偏見の怖さ」